
一部50円です



おやじの影

男達が集まって話のネタが尽きてくると父親の話題に振る。するとシラケそうになった場が勢いを取り戻して盛り上がるのである。それは中高年の男にとって父親は常に意識せざるをえない存在であり続けている証しでもある。男にとって父親や兄はいくつになってもライバルであり続ける。たとえその対象が死んでもその想いは変わらない。

私のオヤジも亡くなって久しいが、七回忌を過ぎた頃からはじめて父親への想いを冷静に考えるようになった。自分がそれだけ歳も取り身体の老化を意識し出したことも重なっているのだと思うが、それまではライバルに対抗するかのような競争意識がつよく父への

批判や軽蔑といった否定的な想いが強かったが、時間と共にそういう諸々のことが消え共感しうる良き友であるかのように感じるようになってきた。

生前の父は、素面の時には仏のように人の良い真面目な人柄なのだが、酒が入ると手がつけられなくなってしまう癖があった為に、私は父を馬鹿にする想いが強かった。入試の前日の真夜中、酔っ払った父をつれて帰る途中、幾度も道をそれ田んぼの中で取っ組み合いをした事があった。ぶざまな父を見て「なんという親だ！なさない男だ」と心底あきれかえったものだ。そんな父も還暦を迎える頃に脳梗塞に倒れた。つらい三年間のリハビリに耐え農作業が出来るようになる、リハビリを兼ねて山仕事に毎日行くようになった。一銭の金儲けにはならないが、人前に出て気を遣うよりひとりで山の杉の世話をする道を選んだのだ。

さしたる才能もなく金儲けにも縁がなく、真面目さだけがとりえの男であった。自分は父とはちがう、父のようにはない、父を超えた偉い人間になるんだ、と父を馬鹿にしながら生きてきた。しかし、いまだ父を超えられない自分がいると思えてならない。尋常小学校しか行かず、本も読まず酒に溺れた父を超えられないと考えるのは何故だろうか。私は、父より学歴はつけたし金も稼いだが、まだ足りないものがある。街に出てチャラチャラ生きてきたが、忍耐強く黙々と手を抜かず几帳面に生きる素朴な人間味が私には欠けている。父は「人には親切にせなあかん。道がわからず困っている人には、紙に地図を書いて丁寧に教えることだ。いいかげんな受け答えはいかん」と幾度も私をたしなめていた。死んでも父は私の前を歩いている。

二十代、三十代は行き当たりバッタリの勢いでなんとかやってきた。これではいかんと、四十を前に奮起し、仕切り直しをして、四十代、五十代は人並みに商売に向きあってきた。

去年、めでたく還暦を迎えたが、身体は病にむしばまれていた。医者の方方する薬を飲み、月イチで検査に行くが、一向に数値が下がらない。気力が弱り、体力の低下を感じる。長引く不景気は、弱っている気を一層下げる。

知人らの訃報を聞き、我が人生をまとめようと思うのだが、すっきりとまとまらない。

家族や仕事、金、どれをとっても足りないものだらけで、手をつけられない。ごちやごちやになった部屋の掃除をしようと思いつのだが、部屋の戸を開けて見てあ然とし、何もせず戸を閉めて、開かずの間にしているのと同じである。

もう一度、人生の仕切り直しをし、目標を見つけないければならぬのに、そういう気がわいてこない。友人が「もう、人生にあいたわ」と言っていたが、同じような心境になっている。あげくの果てに、爺捨て山に逃げ込もうと考えている自分の魂胆が情けない。

「ぼうどう、起こさなあかんやろ」。

姉はそう息巻いた。「年金もろくすっぽ寄こさんと、何が消費税アツプや。コレ以上、ナメられたらアカンから、この辺で暴れなアカンで」。誰が? 「国民に決まってるやろ!」って、姉サン、気持ち

で、これは詐欺や!と怒っているんです」と怒っていた。その立場にならないと、他人の怒りなんて「ふうん、そうなん?」という感じだが、こと年金に関しては、「そりや、腹立つわな」と心底、共鳴する。自分が掛けていた分が13万円とする。ご主人の年金の半分が11万円とする。合わせ

「だってなあ、許されへんやろ。ミツヨ(姉の大親友。離婚している)なんか、

暮らしても、家賃などを払えば、それぐら

年金8万円ぐらいやねんて。しやから、

一方」で少ない方を選択する人はいない。

死ぬまで働かなあかんねん、って言うて

24万円か13万円ではあまりにも差が

やる。ずうっと、働いてきて何でや、と

ある。捨てる方がせめて3万円ぐらいたっ

思うやろ」。思う、思う、絶対に思う。

たら、まだ諦めもつぐが、ほぼ同額なんて

8万円なんて生活保護より少ない。

いう場合は、諦めきれない。当然、暴動を

私の友だちも、「お母さんが年金のこと

起こすべきだ。「こんなん、いつ決めてん

で激怒している」と言っていた。お母さ

ツ、納得でけへんツ」と暴れるべきだ。で

んは若いころから、私の友だちを保育園

も、誰も暴れない。年金事務所がなつて

に預けて働いていたそうだ。当然、厚生

いるオッサンぐらいはいるかもしれない

年金をきちんと掛けてきた。会社員だっ

が、私たち日本人はおとなしい。おとなし

たご主人と二人で、普通の老後が送れ

すぎる。

る、と思っていた矢先にご主人が亡くな

「な、ストなんて手ぬるいこと言うてたら

った。私の友だちは「年金、お父さんが

アカンやろ」と、姉。「アンタ、調べとい

もらう金額の半分と、お母さんが自分で

てくれへん」。これも、姉のお決まりのフ

掛けてきた分と、両方もらえると思つて

レースだ。私は、これまでの人生で、姉に

いたら、どちらか一方しか、もらえない

何べんこう言われたか、わからない。諦め

んですつて。もう、お母さん、がっかり

の悪い姉が自分を納得させるための捨て

して、怒りまくっているんです。自分が

ゼリフというやつ。「妹に頼んでおいた」。

掛けてきた分を捨てるか、お父さんが長

だが、このアホ妹は、言われた尻から忘れ

年掛けていた分を捨てるか、ということ

るか、気になつていても放置しとくかの

どちらかだから、進展はしない。でも、

一応、聞く。「えつ、調べるって、何を?」。

「どこかで、抗議ストとかやってたら、

私も行こ思うねん。どつかでやってへん

か、調べといて。東京ぐらいやったら、

自分で交通費出して、行くわ」

基本、ムダ金を使いたがらない主婦の姉

がこう言っているのだ。本気である。

野田総理もいい加減にしないと、本気で

怒るよ、姉チャンが。私が。ミツヨさん

が。友だちのお母さんが。

「ほんまになあ、ナマズかうナギか知

らんけど、きたない肌して」と姉は、野

田総理の悪口を言い始めた。ナマズかう

ナギって、ワザと言ってるんだらうか。

姉さん、ドジョウですけど、野田総理は。

「民主党に変わったとき、ああ、日本も、

ちよつとはマシになるかと期待したけ

ど、全然やん。とくに、野田総理、いや

やわ! 平然とした顔して、何が消費税ア

ツプや」。もう決まりつてことになるんだ

らうか。無理やりに、党内で消費税増税

法案を了承させちゃったみたいだが、国

民は了承してないのに。年金制度を平気

で崩壊させておいて官僚や役人の天国は

続け、東電には盗人に追い銭みたいに巨

額の資金を投入し、これじゃ、昔の「民

は飢えに苦しみ、お武家さま方ばかりが

ぬくぬくと肥え太っておられる」という

時代劇のまんまじゃないか。

「民主党もアカンけど、自民党ももつと

アカンしな」と姉はきっぱり言った。「大

震災が起きたとき、ここは党派を超え

て、協力して下さい、と管(呼び捨てだ)

が頭下げて、タニガキのところに言いに行

ったやろ」。そうそう、そんなこと、あ

った、あった。確か、管さんだった、あ

のときは。

「しやけど、タニガキ、四の五の言うて、

手エ結べへんかったやろ、あの状況でや

で。何はさておき、被災者助けて、原発

にも対応せなアカンかった、あのとき

に」。忘れかけてたけど、姉チャンの言

う通りだ。あのときの自民党ぐらい、腹

立つ政党はなかった。原発政策だつて、

自民党が推進してきたことなのに。

「ほんまに、タニガキって、ええ年や

のに、とつちやん小憎やろ、あの童顔

が嫌いやわあ」。別に、姉チャンや私に

嫌われても、谷垣さんは痛くも痒くも

ないだらうけど、顔のことまで言われ

たら、身内やシンパはムカツクだらう

な。さらに続けて姉は無茶苦茶なこと



を言つて、自分で受けていた。「名字がタニガキだけに、ガキの顔てか。くつくつく」。なんて強引。新垣さんや干し柿に反論されそうだが、ガキがついたら童顔かと。「とつちゃん小憎といえらば、橋下さんもそうやけど、まだマシやな。大阪市は関電の株主や、つていろいろ関電に言うてるやろ。幹部はナシ給料もろてるねん、5千万？ 関西の殿様か、とかな」

君が代歌え、とか暴君みたいなことを言つたりして、アブナイ兄ちゃんやと思わなくもないが、それでも中央の政治家オヤジたちよりはマシか。知らないけど。

ともかく、名前や顔まで悪口言われる筋合いはないと政治家たちは思うかもしれないけど、民は怒っているのだ。だが、別段、どこかで一揆が起きてるとか、主婦がしゃもじを持って決起した、とか聞かない。いまだき、主婦を象徴するものに、しゃもじなんて言つたら時代錯誤だけど、とにかく、平和である。

怒りの権化と化していた姉ちゃんも、次の週に電話したら、「国家がどう、とか言うてるでも、しゃあないやろ」と話がかわつていないか。野田総理をこきおろし、暴動を起こして、政府を顛覆させるのではなかったのか、姉ちゃん！

食物アレルギーの物語Ⅱ

汚染される環境と人体⑬

山彦海彦

それ以来彼らは偽医者扱いされました。でも、彼の噂を聞きつけた自分自身がこの病に苦しむ医者やその家族が、藁をも掴む思いでクリニカル・エコロジストの診療を受けたのです。そして健康を取り戻したその人々によって、クリニカル・エコロジは徐々に広がっていったのです。1965年、彼ら5名によってアメリカ環境医学の前身、臨床生態学会が設立されました。このころランドルフは建築学会において室内の空気が埃やカビなどの環境アレルギーや化学物質に汚染される危険性を訴えています。日本で80年代後半から問題となったシックハウスの症候群の問題を遡ること20年以上前のことです。

偽医者のレッテルを貼られた彼らの論文は有力な医学雑誌には掲載を拒否されました。ですから今の時点でも医学論文の検索をしても彼らの論文はほとんど出てきません（彼らの500本以上の論文はアメリカ環境医学アカデミーやアメリカ環境健康財団「AEHF」でいつでも閲覧購入できます）。また10例以上にも及ぶ二重盲検による事例が精神医学会などに提出されまし

たが全て黙殺されました。

1970年代マーシャル・マンデル博士がフラーサナトリウムの精神科医ウイリアム・フィルポット博士と行った治療では入院患者の90%に脳のアレルギーを確認し、ランドルフ博士の包括的技法によって、ジェニファーという11年間も慢性分裂病で苦しんできた若い女性が完全な寛解を起こすという奇跡が起きたにもかかわらず、何者かが州政府に讒言し、「アレルギーの研究は精神病院で行われるべきでない」という恥ずべき、理由にならない理由で禁止されました。科学では異なる分野から現象の説明や法則が発見される事はよくあることです。精神医学にはこの原則は通用しないようです。精神医学ではなく「精神異学」のようです。なおマンデル医師の本は河野医師によって邦訳され「マンデル博士のアレルギー治療法」（桐書房）、フィルポット医師は「Brain Allergies」として出版されています。

日本での食物アレルギーの先駆者は群馬大学小児科元名誉教授故松村龍雄氏です。氏が食物アレルギーに気が付かれたのはご自分の長く苦しい奇妙な体験からでした。先生は生来病弱だったそうで、虫垂炎を悪化させ腹膜炎となり、半年も病臥に伏せ、十二指腸潰瘍を患い、下痢や嘔吐などの身体の不調をたえず持つておられました。昭和30年代小

児科教授として人工ミルクのアレルギーについて研究を始めてから1年ほど経ったとき、通勤途中で赤城山を見上げながらふと先生は気付いたそうです、虚弱体質改善のために幼い頃から飲んでいる牛乳

が原因かもと。断つて3日後いつになく爽快感を覚え体調は初めて正常に戻った。1970年ころなんと先生が50歳位になられてからのことです。

渡航に耐える身になった氏はアレルギーの文献を探し求め、アルバート・ロウ氏らの食物アレルギーに出会い、アメリカの食物アレルギー学会の立ち上げにかかりました。1976年公認を受けカナダで初めての会合がもたれた時、松村氏とロウ氏のご息子は生涯学会から認められず4年前に亡くなられたロウ氏の悲運に感慨の涙を流しました。

その後松村氏は論文を発表されているのですが、無視されつづけていたようです。医師向けに食物アレルギーセミナーを開催されていたこともあり、先生の影響を受けたのが、門下生でもある富所隆三氏や青山美子氏、学外からは河野泉氏、後木健一氏の各氏が活動されています。

また松村氏とは別に東京医科大学のある教授も食物アレルギーを再発見さ

れ、千葉友幸氏や松延正之氏に伝えられ実践されてきました。

北里大学の石川哲名誉教授は眼科医で農薬の目に対する影響の研究からこの道に入られた方で、現在のアメリカの中心的人物レイ・ウイリアム博士と研究を共されたこともあります。

第3回目で述べた石川氏の長野県佐久地方の子供に広がった「佐久の奇病」の論文は長い間世間に知られませんでした。その論文が脚光を浴びる切っ掛けとなったのが「湾岸戦争症候群」です。出征した兵士の間で広がった気病とされた奇病です。油田火災の黒煙の影響ではないかともされましたが、一番疑わしかったのは戦争で使用された毒ガス「サリン」で、実はサリンは有機リン化学物質では最強の毒性を表わす殺人ガスのなです。そこで農薬に



ヘリコプターを使った農薬散布

ついでの研究はないか過去に遡って調べられ注目されたのが石川氏の論文だったので。

戦場に再び行きたくないからだと思声と汚名を浴びせられた帰還兵の一部がダラスのウイリアム・レイ医師の診察を受けたところ、化学物質過敏症であることが判明しています。化学物質過敏症と湾岸戦争症候群は非常に類似した病気なのです。

1992年、かねてから連絡を取り合っていた各氏により日本臨床環境医学会が設立されました。1999年、北里研究所病院にクリーンルーム建設。

1988年、臨床生態学会はアメリカ環境医学アカデミーと名称を変えました。1997年時点で会員は600名、アメリカのアレルギー専門医400名中2000名程度この医学を肯定していますが、それを面前では表明しません。主流派のアレルギー学会から退会させられるからです。

今では名張市で医師をされている須藤京子氏がドリス・ラップ医師の病院に子供の重度アトピーの治療に訪米した時、主流派の学会幹部がお忍びで自分の子供の学習障害の治療を受けさせていたそうです。彼女はその医師から著書に自分の名前を伏せてくれと懇願を受けました。主流派はなんとというて

いたらくでしようか。

80年代アメリカで化学物質過敏症の問題が注目されたのが環境保護局の庁舎改築からでした。床のカーペットが張り替えられたところ多くの職員がシックハウス症候群やより重度の化学物質過敏症になってしまったのです。カーペットの繊維を柔らかくするために使用されているのも有機リン化学物質です。

日本では2008年に厚生労働省から化学物質過敏症は病名登録されました。しかしその認知は未だ遠いものであり、規制されたホルムアルデヒドの代替え化学物質でシックスクール問題が次々と発生しています。去年は奥州市のシックスクール問題と係わりました。自らの子供と同じ被害に遭った他の子供を救うために立ち上がった父親に対し、おめでたい教育委員会はモンスターピアレンツと彼を揶揄しました。

もう皆さんは目覚めなければなりません。シックハウスは身近な健康問題です。皆さまが常日頃悩んでいる病気もアレルギーや化学物質過敏症に関連しているものが多くあります。関西で頼りになるのは吹角医師と鈴木医師、須藤医師の3人しかいません。「気付き」が無い限り長いトンネルを抜け出せないでしょう。

あの世の話 ～とある読書感想文(2)

大江雉兎

前回は、飯田史彦氏の『生きがいの創造』を取り上げ、論法に絞って問題点をいくつか指摘したが、もう少し大きな視野からも見てみよう。『生きがいの創造』が取り上げる事例は、同書が参考文献に挙げる資料リストで確認できるものが多い。それらは精神医療の専門家が報告したもので、信用に値する報告として受け入れるところからスタートしたい。怪しげなガセネタと向き合う場合とは異なり、各報告の内容は疑わず、それをどう解釈したり、どう評価したりするかというところから始められるということである。すべての報告について出典検証をするのは難しいので、とっかかりとして、手軽に確認できる邦訳版のあるものを数冊ランダムに並べてみる(『書名』著者名・邦訳版の訳者名、邦訳版出版社・邦訳版刊年「原書刊年」)。

- 1 『かいま見た死後の世界』ムーディ・中山善之訳、評論社・1980 [1975]
- 2 『輪廻転生』ホイットン他・片桐すみ子訳、人文書院・1989 [1986]
- 3 『前世を記憶する子どもたち』ステイヴンソン・笠原敏雄訳、日本教文社・1990 [1987]
- 4 『前世療法』ワイズ・山川紘矢・亜希子訳、PHP研究所・1991 [1988]

報告の内容を具体的に書き出す余裕はないが、各事例にはタイプの違いがある

「我が身の老後はどうなるのやら。出来れば、労り合う夫婦になりたいものだ」

変わりの実在を示すものとして提示されていても、それが学際的な検討に耐えられないよう、慎重にも慎重を重ねた条件設定をするケース（ムーディやステイヴンソン）や、数多くの症例をジャーナリストの筆に委ねたレポートとして提出されたもの（ホイットン）などの違いである。あるいは、その患者と出会う以前は「伝統的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

リハビリ4

これらは等し並みに扱うことはできない。「科学」を掲げる場合はムーディやステイヴンソンに近い態度を取らねばならないし、生まれ変わりを信じることも影響に注目するのなら、そうした立場を明確にしたうえでワイズの報告を分析することになる。医師科学者が取り上げているから、そのまま、まるまる信じてしまうというのでは、ステイヴンソンがいうところの「懐疑的な態度を取られていた方々が、本書（前掲3）を読ま

「私が身の老後はどうなるのやら。出来れば、労り合う夫婦になりたいものだ」私は亭主関白タイプだった。しかし、ある言葉に出会ってから変わった。ある言葉とは次の三つである。

ただで、生まれ変わりと現象が本当に存在すると確信するようになったとしても、それは私の本意とするところである。（続）

「一人は亭主関白。」

「生きているから、そのまま、まるまる信じてしまうというのでは、ステイヴンソンがいうところの「懐疑的な態度を取られていた方々が、本書（前掲3）を読ま

「そこと違うやろ、早ようせんかい」

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「はい、はい」

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「ありがとう」は板に付いた。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「ごめん」は一年に二、三回使う。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「愛してる」は使っていない。かつて一度だけ使った。そしたら妻が「気持ち悪いから止めて」と返してきた。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「それもそうだな。俺には似合わない」自分でも納得した。以来、使っていない。それでも良い。二つの言葉だけでも夫婦仲は良くなった。喧嘩が減ったし、長く引きずることがなくなった。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

また、妻以外の知友人に対しても同じ効果があつた。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「ありがとう」と「ごめん」は人間関係を円滑にする魔法の言葉だ。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「ありがとう」と「ごめん」は人間関係を円滑にする魔法の言葉だ。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「ありがとう」と「ごめん」は人間関係を円滑にする魔法の言葉だ。

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「優しく、優しく」

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「優しく、優しく」

「科学的な科学の手法で証明されないものは信じなかった」と宣言したうえで、そんな考え方だけでなく、人生観も変えてしまった出来事として、一つの症例を詳しくレポートするもの（ワイズ）、これもまた異なったタイプと見るべきだろう。

「優しく、優しく」



米国時代 4 (78年12月、84年1月)

土田 裕

ゴルフ

商社に限らず海外駐在員が最もエンジョイするスポーツはゴルフだと思ふ。ハンブルグの時はゴルフ場も少なく、日本からの来客でドイツでゴルフをやりたいという人はまずいなかった。シカゴ周辺には約二〇〇のゴルフ場があると云われ、一流ゴルフ場は別としてパブリックのゴルフ場はグリーンファイが20・30ドルで、しかも殆どのパブリックコースは予約なしの先着順で受け付けてくれた。従って、土日のどちらかは会社の仲間とゴルフで半日過ごすことが多かった。

我々が住んでいる街が運営しているゴルフ場もあり、そのレストランが住民の社交場にもなっていて、ゴルフをやらなくても友人と飲食に来ている人も多かった。

物資課の連中が一番良く通ったのはオールド・オーチャードで、距離が短いので私のようにあまり飛ばない人間向きであった。日本人は日本で高いグリーンファイを払ってゴルフをやっている為、一打一打、時間をかけ、パツ

ともOKなしで最後まで打つのが習慣になっているが、アメリカ人はポンポン打ってグリーンに上がったらパット無しで次のホールに進む人が結構いて吃驚した。

日本からの来客や現地の重要客先の接待には当地でも有名なメンバーコースへ連れて行くのだが、大抵は支店長がメンバーになっているバトラーイ・インターナショナルへ行った。このコースはプロのトーナメントであるウエストン・オープンが毎年開かれる全米屈指の難コースでウエストン・オープン優勝者のスコアは4日間で4、5アンダーであった。従って私のような下手なゴルファーの手には負えず、何時行ってもハーフ60以上叩いていた。土日にはどこのゴルフ場へ行っても必ずかなりの日本人が居て、日本人がいかにかに家族を大事にしないかを表す現象であった。というのは現地の人は、土日は家族サービスに精を出すのが常で、土日に来るのは必要やむを得ない場合だけのことであった。

米国の都市

シカゴに駐在していた五年間に出張または休暇で色々な都市に行ったが、欧州と異なりアメリカの地方都市はどこへ行っても殆ど変わらず、特徴がないというのが私の印象である。その中

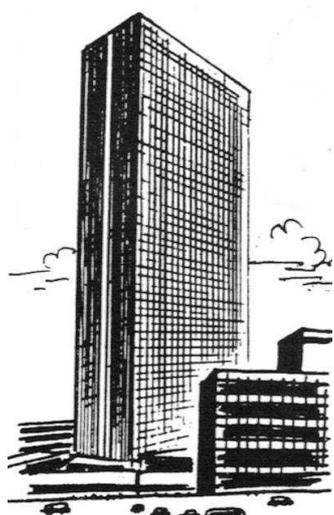
でも他の町とは違う町並みや雰囲気があるのが、サンフランシスコ、ニューオーリンズ、ラスベガスであった。サンフランシスコは坂が多く、その為ケーブルカー(地表にケーブルが敷いてありこれが車両を引っ張る)が街中を走っている。山手の高級住宅の建物と建物との間隔が三十センチくらいしかなく火事の時はどうするのだろうか心配になった。

ニューオーリンズはフレンチ・クォーターが有名でフランスの匂いが色濃くする町であった。ここはザリガニのスープが有名で美味しいものの少ないアメリカでは珍しく食べ物が美味しい。ジャズの発祥地でジャズバーは古いアメリカの雰囲気を残しておりファンにとっては心地よい場所だと思ふが、黒人が多く一般の日本人には入りにくい。ニューオーリンズにはラフアイエツト墓地という広大な墓地があり、観光名所にもなっている。日本の墓石のように画一的な形ではなく、それぞれがユニークな形状をしていて壮观であった。日本人にはおなじみのラスベガスには転勤してから初めて行った。欧州と同様にカジノは一つの建物の中にあるものと想像していたが、大きなホテルの1階は全てカジノだったので吃驚した。もともと博才はなく何をやっても短時間で掏ってしまうので全

く楽しめなかった。

ニューヨークには米国三井の本店があり、部門の会議は本店で開かれるのと、トイショウ(もともとは玩具の展示会だが自転車も展示される)での客先アテンドなどで度々出張した。アメリカ最大の都市で文化・娯楽施設も充実しており、シカゴから出張すると、お上りさんの感覚になり最初はおろおろしたことを覚えている。

例えばラガーディア空港なら市内に近いでタクシーも余りぼられないのだが、JFK空港の場合は、成田ほどではないが市内までかなりの距離がありバスを利用する人が多いのだが、ある時、夜遅く着いたので何気なしにタクシーに乗ったらメーターを倒さずに走っている。「ハウマツチ」と聞いたら「この時間は帰りの客がないので九五ドル」と言つて値段表らしきものを見せる。いくらなんでも高すぎると思つたが、通常料金も知らないし、途中で降ろされても困るのでしぶしぶ支払つ



た。またかなり危険な目にもあった。ある冬、部門会議の後、数人で夕食に出かけた時大きな白人女2人連れに出会った。その内の一人が何か言いながら近寄ってきて突然、私の首を抱えたので吃驚して振りほどいたところ、私の財布が道路に落ちるのが見えた。あわてて拾ったところ、二人は逃走した。会議の仲間は先を歩いていたので追いついたら、「お前、もてていいね」とのんきなことを言っている。私の身長は160センチなので一般のアメリカ女の方がはるかに大きいし、力も強い。ましてこれは釣りだったらしく危ないところだった。当時の地下鉄は落書きだらけで、危険なのでなるべく乗らないようにと会社から忠告されていた。

四年前、二三年前にニューヨークを訪れ、グラランド・ゼロへ行くのに地下鉄に乗ったが落書きもなく、危険な感じは全くしなかった。

私の印象は良くないが、一般的な日本人にはニューヨークは人気があり、確か当時も二万人くらいの邦人が住んでいたと思う。日本食の店も一〇〇軒以上あり、当社のニューヨーク駐在員も殆ど毎日、日本食を食べているとのことであった。

当時はまだアメリカ人で寿司を食べる人は少数派で、日本料理店の客は大半が日本人であった。(この項つづく)

わが沖縄考 1

具志晩学

『出身県でわかる人の性格』(草思社)の「沖縄県」の項目を読んだ。書き出しは次のように始まる。

(日本とはもともと別の民族、別の国)
(沖縄は本来、日本人とは別の民族がつくっていた国である。)

今時、こんな暴論を吐く文化人もいるのである。著者の岩中祥史氏は、1950年生まれ。東京大学文学部卒、出版社に勤務後、独立して…と巻末に紹介がある。相当な知識人と見受けられる。県民性研究家なのだそうだが、この人は一体、天下の東大でどんな学問を修めて来られたのだろうか。

『国史大事典』(吉川弘文館)は日本の項目で次のように解説している。

「沖縄は、本土と同じに日本民族が居住しながら、政治的には独立して、十二世紀末ごろ以降、琉球王国を建て、十四世紀からは、中国(明)に朝貢していたが、慶長十四年(1609)に薩摩の島津氏の侵攻を受けて、その支配下に入った。」

私は昭和七年(1932)沖縄県那覇市出身。特に学問はなく、一介の読書人に過ぎないが、今日までの読書体験から次のように理解している。

日本人の祖先は縄文人である。その

先人は、南北そして西の三方から日本列島にやってきた人類から成る。約一万二、三千年後の後氷期、海水が次第に上昇し、やがて、大陸とは完全に分離した。それから約一万年もの長い時間人々はゆるやかながらも進化しつつ縄文文化を形成してきた。

沖縄県那覇市近郊具志頭村で出土した人骨、いわゆる港川人は、放射性炭素による年代測定の結果、約一万八千年前の人類と判定され、現代日本人の最古の祖先である事が明らかになった。

縄文時代も末期になると、前三世紀頃、韓半島から九州北西部への人々の渡来が始まる。

第二次大戦間もなく、高名な学者に「騎馬民族征服王朝説」があったが、今日では多くの学者がその学説に否定的だ。

当初の渡来人は大陸の戦乱を避けて来たのであって、侵攻を意図して上陸したのではあるまい。しかし多少の摩

擦は生じる。縄文人は、青銅器、鉄器文化を相手に戦っては勝てない。紛争はあつたにしても、平和的な融合が主流だった、と思われる。

最近、三内丸山遺跡等の発掘研究の成果もあり、縄文文化が見直され、その評価が高まっている。一万年の歴史は、思いの外、高度な文明だった。

渡来人が縄文人に多大な影響を与え、また永い歳月の混血の繰り返しにより弥生文化が形成された。ただ、征服されただけではない。むしろ縄文人が渡来人を吸収した、と考える方が自然ではないか。その新しい文化の主体となったのは在来の人々だ。彼らが弥生文化を担い、それが千年後の古代大和王朝へと継承される。

縄文文化が渡来の文化を吸収して、いわゆる弥生文化へと進化して行った、と考える専門家が多い。

地理的な関係で沖縄縄文人と渡来人との交流は希薄だったことは当然だが、全くなかったわけではない。

九州の弥生人の権力者がその象徴として着けていた腕輪は、琉球産の巻貝で作られている。沖縄本島北部、本部半島北西の東シナ海にある伊江島の具志原遺跡からその貝類がひとかたまりになって数箇所発見され、貝の積出し港があつたと見られている。九州の弥生土器も出土し、弥生文化が沖縄へ波及して行ったことを物語っている。(この項つづく)



縄文時代の火焰土器

人間最後は一人

人間の生活には誰の上にも、ちょっと面白いことに出会ったりする。心の中に納めておけばよいものを誰かに話そうとする。

また、それがぐちであつても、仲のよい人に話したら気が晴れるだろうということになる。

あまりにも、くだらない話だと笑う人もいる。

「亡き主人が夢にできて痛む胸をさすってくれる何もいわずに：」

夢の話をしたら、まあ仲のよいこと、と笑われてしまった。

こんな思ひ出話をするのも、人生それぞれ大事にと生きてきた証といえるかも。

亡き主人が出てくる夢は、私にとつては忘れられない記憶だから。

歩けるということ

高齢者にとって「自分で歩ける」ということが、本当に大切だとつくづく思う。

私より少し若く見える人も、明らかに八十歳を超えている人も、それぞれにがんばって歩いている。転んだら歩けなくなる。病気をしたら起きられなくなる。

そんな時がきつとやってくるから

絶対に転ばないようにしている。けど、ついあわてて、かけだして、転んでしまうこともあるかもしれない。そうならないために、外出の時は、時間に余裕をみる。

車は、自転車は…、と神経を集中して歩く。けれども、年をとればとる程、どこかがボケてくる。健康とは？と自分に問いかけながらも。

しあわせと思える暮らしが出来ることと表裏一体ではないかと答えがでる。

精神的にも前向きに、周りの人とよい関係を持つて、一日一日を暮らすことが出来るかどうか。これがまず第一では、

と思う。

主人のため

そこここに付けし手すりにて

今は我が身を支える。

私の生活

体重をおだやかに安定させる。ここ二、三年体重に変化はない。内臓系の病

気については、健康だといえる。

食生活がそこそこだから、栄養のバランスを考えて作ろうと無理するのでは

なく、お惣菜など時々、スーパーの調理済みを利用してみる。

食生活に変化をつける工夫も大切だ

と思う。

家で作る常備菜、ラッキョ、梅干、味噌漬、からし漬、にぎやかなこと。

この他にも知人から頂く野菜たっぷりのお惣菜。おふくろの味そっくり。変化にとんでいて、大助かりである。「ありがとう」と心から手を合わせ幸せを味わっている。

俳句

土田 裕

春眠し妻の淹れたる茶の香り
ものの芽や舗装道路の隙間にも
瑠璃色の空どこまでも暮春かな
春雨や傘をさす人ささぬ人
たんぼの絮の舞ひくる野点かな
はくびしん棲みつく街の朧かな
遠足や黄色帽子の連なれり
はみを噛む駿馬放てり草青む
釣り人の大あくびして目借時
兄逝きて朋友逝きて花辛夷



鮮度落の我が目の中に紅つつじ
重い腰あげて約束春の雨
鍋磨き次の馳走に悩む春
黒髪よとなりの娘春立つ日
春嵐午後にはやみてスズメ鳴く

薫女



編集後記

消費税増税を閣議決定した野田さんは何を考えているのだろうか。さっぱり分かりません。私なら、赤字国債をどんどん出して、日銀に買い取らせ市中に金をばらまきます。

今、国が節約志向を強めては国を減ぼします。国債の暴落なんかはありつこない。インフレを起こす以外に借金の返済は方法はないと思うのだが。

『商店街歳時記』

4月29日(日)

10:00~16:00

こいのぼりフェスタ
1000IN高槻

芥川櫻堤公園

イベントが
いろいろあります

着物から服を仕立てます

梵~ぼん~